

JR東日本労働組合

秋田ジャーナル

J R 東日本労働組合

秋田地方本部

発行者 ~ 笹渕 太郎

編集者 ~ 教 宣 部

秋田市中通6丁目7-9秋田県畜産ビル1F

TEL 835-4040 FAX 835-4060



HPはこちら!

秋田新幹線車両センター 新交換体制**説明**

1. トライアルについて冬期を考慮した検証を行わなかった理由を明らかにすること。

Q. 冬期におけるトライアルを行っていないが、何を基準に新交換は可能であると判断したのか。

A. 冬期における過去の取替実績を基に判断をした。

Q. 凍結している摩耗品等を溶かす作業は誰が行うのか。

A. 交換担当が行う事となる。摩耗品等の作業により厳しい場合は、技管も行う。

Q. 冬期をかけてトライアルを行うという考えはなかったのか。

A. 十分に過去の実績から可能であると判断したため、冬期に行う考えはない。



取替実績と実際の作業だと、時間の考慮がされてない気がするけど大丈夫かな？今年豪雪じゃなければいいんだけど…

2. 交番検査を担当する新入社員や転入者などに対する教育方針を明らかにすること。

Q. 教育に関しては、今まで以上に期間を取ることで担当者が不安のないようにして頂きたい。

A. もちろん期間はしっかりと確保する。また個人の習熟度に合わせて教育を進めて行く。

Q. 一人ひとりの作業量が増えることで、臨修や取替方法についてOJT期間では教育時間を確保できない可能性があるがどうするのか。

A. これまでと基本的には変わるものではないが、新体制になり2名が教育や他作業を行うことができる。この2名の中からOJT者へ臨修部分の教育を行う人としてつくという方法もある。

3. 臨時修繕が発生した場合も考慮した出勤数としているのが明らかにすること。

Q. 交番検査内で見つかった、時間を要する臨修について今後誰が対応するのか。

A. 総括担当が判断し対応を決定する。

Q. 若い人の超勤問題がある。これ以上の社員減少が続けば、技管をはじめとする担務業務が回らず、超勤前提の仕事が常務化することが危惧されるがどの様に考えているのか。

A. マルチタスクとして、様々な業務を担ってもらっている。体制が確立するとともに、各個人の臨修技術が向上すれば超勤や休日出勤は減少すると考える。



指示文書作成とか、結局交換後の超勤時間帯でやることになるのは変わらないような気がするけど…本当に超勤が減るのかな？

4. 機器箱浸水や摩耗品凍結などの臨時修繕が発生した場合の作業担当者を明らかにすること。

Q. 機器箱浸水は誰が対応するのか。

Q. 凍結を含め、総括や保安担当が摩耗品取替補助にいけない場合、誰が担当するのか。

Q. 季節整備等、総括や保安担当業務に余裕がない場合、臨修は誰が担当するのか。

A. 総括担当が判断し対応を決定する。

Q. 機器箱浸水対応は11時40分ごろからの対応となる。休憩変更を考慮して交換担当が対応するのか。

A. 休憩変更は考えていない。十分交換時間内での対応で間に合うと考えている。